

令和3年度 第1回北海道立文学館運営評価委員会

開催日時 令和3年12月23日(木) 14:00

開催場所 北海道立文学館 地階講堂

I 次第

1 主催者挨拶

2 議題

(1) 新型コロナウイルス感染防止への対応について

(2) 令和3年度事業の実施状況について

(3) その他

II 出席委員

(敬称略：50音順)

氏名	区分及び所属等
上野 靖	【社会教育関係】 公益財団法人北海道生涯学習協会 専務理事
大澤 隆義	【地域関係者】 中島公園管理事務所長(中島公園地域コミュニティ推進協議会 事務局長)
辰巳奈優美	【利用者】 公益財団法人北海道文学館賛助会員(俳人協会北海道支部 理事)
渡部 浩士	【学校教育関係者】 札幌市立新川西中学校長(北海道学校図書館協会 会長)

III 委員からの意見等

委員)

特別展の小説挿絵の魅力ですが、挿絵は小説のとても大切な要素であって、本文と作品が並行して展示されて、画家が試行錯誤を重ねた過程は興味深く、知っている作家の作品があっても興味深く拝見させていただいた。太宰治については今後開催の予定はあるのでしょうか？

事務局)

作品は東京の日本近代文学館から多くを借りて実施したので、予算の関係もあるが機会があれば開催したいと考えています。皆さんがよくご存じの著名な作家も念頭に置きながら企画できればと思います。

委員)

前回、ここで発言したことを取り入れていただき、教育事業的な内容が豊富にあって大変ありがたい。このような色々アイデアを出すのは大変だったことと思います。学校へのPRなどはどの程度行っているのでしょうか、全市町村ですか。

事務局)

出前講座・ミニ巡回展は全道の市町村を対象としており、市町村教育委員会に案内しています。夏休み文学道場や短歌コンテストも市町村教育委員会を通じて学校へ周知しています。わくわくこどもランドは当館が会場ですので札幌市内と近郊の図書館等に案内しています。

委員)

文学に触れるのは小学校高学年から中学校、高校の世代が親しみやすくなっていくと思います。教科書に載る作品の作者を取り上げていただいたのは嬉しく思います。高校生は文学に深く触れていく年代だと思いますので高校生を巻き込むような企画を期待します。

短歌コンテストなどは、授業の中で取り組むには春頃に案内があるとやりやすく、作文などは夏休みの宿題にすることが多いが、授業で取り組んだ方が良いものができ、指導なども入ってレベルも上がるので、4月、5月に案内があると計画的に進められると思います。

委員)

魅力ある事業が展開され、関連事業を含め相当な準備が必要だったことと思います。また道民、子どもたちに向けて一層良い計画を立てていただければと思います。コロナ渦であっても文学といった情緒的な体験ができる役割も果たしていると思います。

観覧料のキャッシュレス決済ですが、具体的にはどのように支払いができるのでしょうか？

事務局)

クレジットカード、電子マネー又はQRコードにより支払ができます。今はコロナ渦で外国人はほとんど来ませんが、外国人はキャッシュレスの利用が多いこともあり導入に至りました。現在のところ利用者はあまりいませんが若い人には利用されるようです。道立施設は去年から順次導入しています。

委員)

キャッシュレスの導入に当たり経費はどの程度かかるのでしょうか？

事務局)

当館ではAirPAY（エアペイ）を導入しており、導入経費としては専用のインターネット回線と領収書用印刷機で約35万円、導入後は利用1件につき約3.5%の決済手数料が必要となります。

委員)

イベントの多さに感心します。毎年イベントの内容は変わるのでしょうか？

事務局)

特別展や常設展(アーカイブ)は毎年変えています。教育普及事業のメニューは例年ほぼ同じで開催回数、箇所数が変わることはあります。

委員)

入館者数の年間の目標といったものは北海道から示されているのでしょうか？

事務局)

昨年度の場合ですと展覧会は年5回以上、人数は24千人以上、普及事業は12千人以上というように目標数値は示されていますので、それらを達成できる計画を立案しています。

委員)

わくわくこどもランドはどういった方が行っているのでしょうか？

事務局)

読み聞かせや人形劇はボランティアにお願いしています。こいのぼりを作るなど実技があるものは当館の職員が行っており、ボランティアには高校生もいます。

委員)

講堂を利用する場合、ワンスパン(1/3利用)の使用料では8名までとなっていますが、これを緩和することはできないのでしょうか。

事務局)

イベント会場関係は緩和されてきていますが、当館の人数制限は、文化庁との協議・助言を踏まえて公益財団法人日本博物館協会が制定した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って定めており、現状ではまだ緩和は難しいと考えます。

また、もともと40～50人規模で利用していた団体は使えない状況になっています。